

かつらぎ町

中飯降遺跡

縄文時代の大型竪穴建物を発見！

な
か
い
ぶ
り
い
せ
き



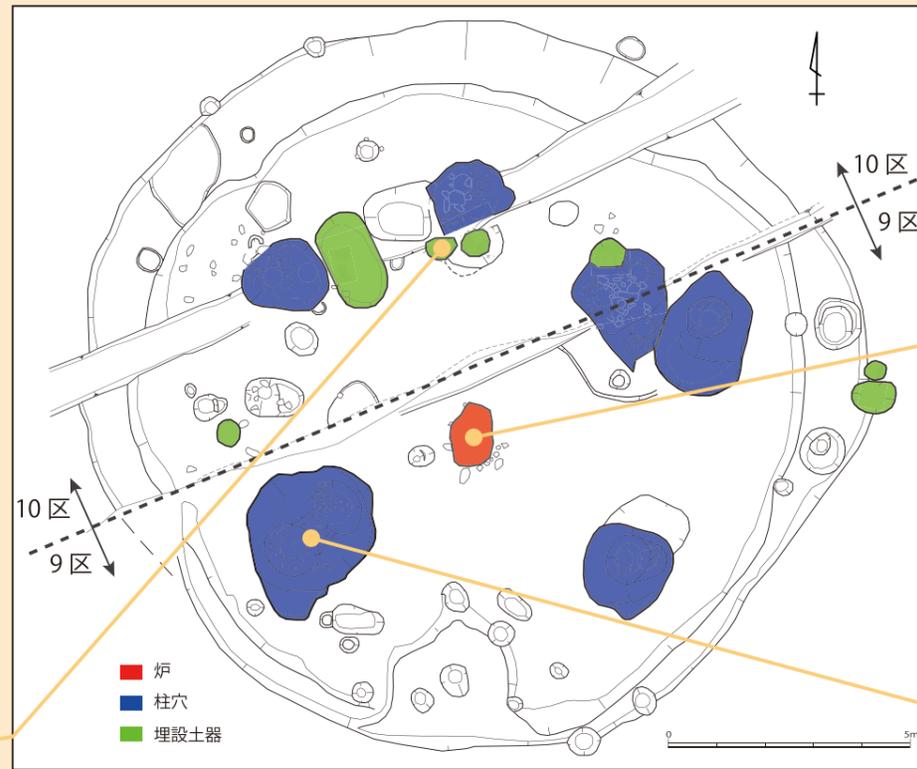
2015

公益財団法人 和歌山県文化財センター

縄文時代の大型竪穴建物 1

中飯降遺跡では**4棟の大型竪穴建物**が発見されました。これらの建物は縄文時代後期(約4,000年前)に建てられたと考えられます。東北地方を中心とした東日本では大型竪穴建物が多く発見されていますが、西日本ではこれほど巨大な竪穴建物はなく、中飯降遺跡の大型竪穴建物は**西日本最大級**といえます。大型竪穴建物1は立体剥ぎ取り保存を行い、それ以外は地中に現状保存されました。

大型竪穴建物1は2008年度に9区の調査で南半分が発見され、翌年度に10区の調査で北半分が発見され、全体像が判明しました。**直径約15m**の円形に近い形をしており、約50cm掘り込んで床面を造っています。支柱穴5本を五角形状に配し、中央に炉1基がある構造になります。**柱の痕跡から2回程度の柱の建替え**が行われたと考えられます。竪穴南端には、内側に張り出す台状の遺構があり、配置からみて、出入り口に関するものと考えられます。

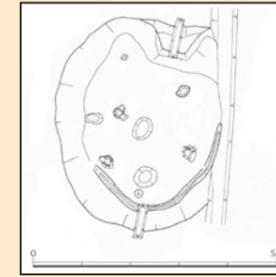


大型竪穴建物1の平面実測図



炉は大型竪穴建物のほぼ中央部に位置し、長径70cm、短径40cmの楕円形をしており、約7cm掘り込まれています。周囲には被熱して赤変したこぶし大の礫を多く確認しました。

炉



徳蔵地区遺跡の竪穴建物

みなべ町徳蔵地区遺跡でみつかった中飯降遺跡と同時期の竪穴建物は、平面積が約13㎡です。中飯降遺跡の大型建物は、平面積が約180㎡で**約14倍**の大きさになります(左の2つは図は同じ縮尺なので大きさの違いがよくわかります)。畳を敷くと**100畳余り**ですから、いかに大規模なものか想像することができます。



埋設土器

柱穴の南側で2基の埋設土器が並んだ状態で検出しました。土器を埋設した上にマウンド状に土を盛っていた痕跡が確認されています。



大型竪穴建物1(10区側)



大型竪穴建物1(9区側)



柱穴

上の写真の柱穴は直径2m、深さ1.1mある巨大なもので、柱を固定するための根固めの石が検出されています。柱は残っていませんでしたが、石の内周から**直径は30~40cm**と推定されます。

縄文時代の大型竪穴建物1の立体剥ぎ取り保存の方法

現場から工房に搬入し、成形・組立作業を行います。シリコンに付着した地表面をポリエステル型に反転し、細部の修正作業・彩色を行い、搬送に適したサイズに分割して移設するための下準備が完成します。



⑦現場から搬出



①剥ぎ取り前の大型竪穴建物



②シリコン塗布



③ポリエステル樹脂の塗布



⑥剥ぎ取り



⑤脱型



④角材で型枠を作成し補強

右の写真の埋設土器は大型竪穴建物1で検出され、焼成後に底部が穿孔(右下の写真)されています。深鉢を中心とした土器が多く出土していますが、石鏃や磨製石斧などの石器も多く出土しています。



磨製石斧



石鏃

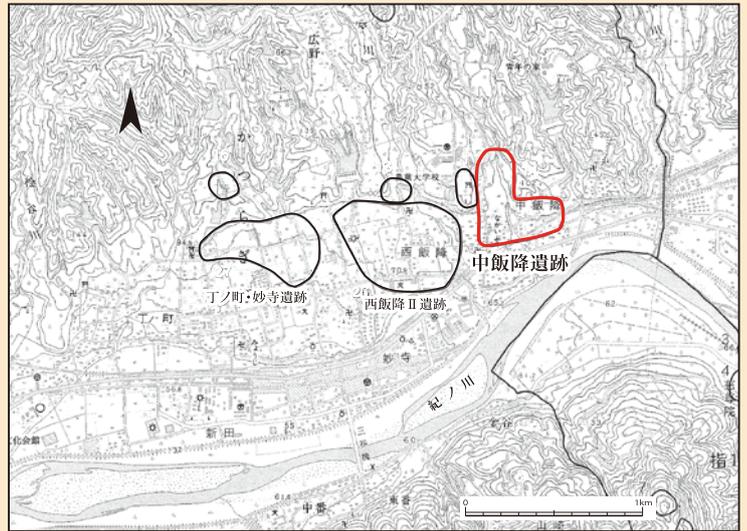


埋設土器

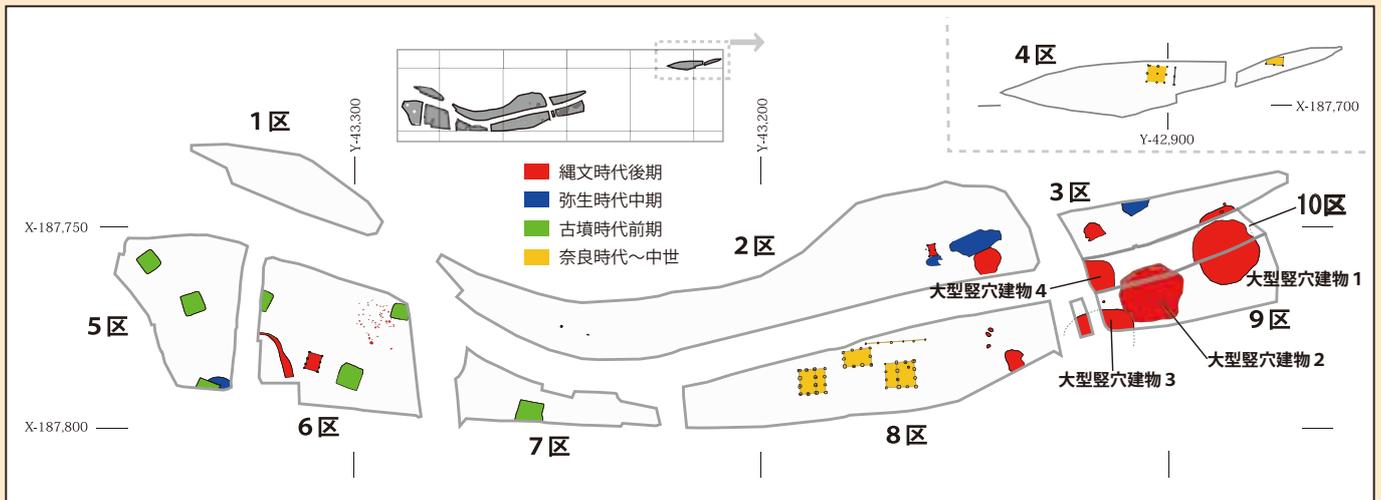
縄文時代の出土遺物

遺跡の概要

2006～2009年度にかけて京奈和自動車道（紀北東道路）の建設に伴い、6箇所の遺跡で発掘調査が行われました。中飯降遺跡は2008・2009年度に調査地を10区に分けて調査しています。中飯降遺跡は、紀の川北岸の低位段丘上に形成された扇状地に位置します。周辺には丁ノ町・妙寺遺跡、西飯降Ⅱ遺跡があり、縄文時代から古墳時代の集落や、古代から中世の水田が広がっていました。



遺跡位置図



調査区遺構略図

調査成果

縄文時代から中世にかけての遺構・遺物が見つかっています。縄文時代中期の土器片が出土しているため、この頃から人々がこの遺跡の周辺で生活していたようです。縄文時代後期には9・10区で西日本最大級の大型竪穴建物が造られます。弥生時代には3・5区で竪穴建物が造られますが、散漫な分布です。古墳時代には5～7区で竪穴建物が造られており、集落が営まれていたことがわかりました。



調査地全景(南から)

奈良時代には8区で3棟の掘立柱建物が計画的な配置で造られており、公的な施設である可能性が考えられます。中世には4区で2棟の掘立柱建物が造られており、全域で中世の耕作土が確認されているため、この時期に耕地開発が行われていたことがわかりました。